

オーディオ再生上のやっかいな問題—その 2 —デジタル音源の位相—

その 1 ではアナログ再生における位相の問題について述べましたが、今回はデジタル再生における位相の問題について考えてみます。

ZANDEN のフォノイコライザー導入時に、CD に関しても位相の問題があるかと質問したところ CD にもあり得るという予想外の回答でした。

そこで、Brooklyn DAC+の位相反転機能を利用して CD の位相について調べていったところ、アナログマスター時代からの CD に逆相のものがあることが分かりました。その後、FIDERIX の TruPhase を導入し、バランス入力時の位相反転機能を利用することもできるようになりました。

また、CD 以外の SACD、MQA-CD、11.2MHzDSD 音源についてもアナログマスター時代からのものは、逆相のものがあることが分ってきました。

アナログとデジタル音源がおなじマスターからのものは、両者の位相は一致し、同じデジタル音源を Brooklyn DAC+と TruPhase で再生しても、両者の位相は一致することも分かってきました。

なお、デジタルマスターになってからの CD には、逆相のものは見つかっていません。

これらの経過の最新のデータを Digital 音源特性表 3 に示します。

このようなデジタル音源の位相にふれた資料は他に見当たりません。

また、試聴会でも資料のシマムセンオーディオ試聴会 (2024.11.23)での CD の試聴のように位相反転を行った例には遭遇していません。

なお、アキュフェーズのプリアンプは、いろいろな状況を想定してか、位相反転機能がありますので、資料のシマムセン訪問記(2024.11.9)で報告のようにプリアンプ C-3900 の位相反転機能を確認できました。

アナログと同じマスターから制作された CD に何となく違和感を覚えていたことがありましたが、位相の問題もその一因であったかと思っています。

なお、ZANDEN も FIDERIX もアキュフェーズも、どのような音源の位相がどうなっているかの情報は提供していません。

以上から、気づかないまま位相を合わせずに聴いている例が、あり得ると思われます。

【資料リスト】

資料 2-A [Digital 音源特性表 3](#)

資料 2-B シマムセンオーディオ試聴会報告 (2024.11.23)

資料 2-C シمامセン訪問記(2024.11.9)

以上